

## 小規模な学校及び大規模な学校の特徴について

### 1 小規模な学校のメリット

- (1) 教員が児童生徒の学習の定着状況を的確に把握でき、きめ細かな指導が可能である。
- (2) 学習や行事等で各児童生徒が活躍しやすい。
- (3) 教員間で児童生徒の情報共有や連携が容易である。
- (4) 運動場や体育館等の使用に余裕がある。
- (5) 教材・教具の各児童生徒への整備が容易である。
- (6) 異年齢の学習活動や校外学習が機動的に実施可能である。
- (7) 児童生徒の家庭の状況が把握容易で、保護者や地域と連携した教育活動が可能である。

### 2 小規模な学校の課題（デメリット）

- (1) クラス替えが全学年単位でできず、人間関係が固定化し悪化すると修復が困難である。
- (2) クラス同士が切磋琢磨する教育活動が困難である。
- (3) 教員が少なく多様な指導形態の形成が困難である。
- (4) 出張や校外学習時の補助・引率体制の形成が困難である。
- (5) 中学校では免許外の教科を教員が担当しなければならない。
- (6) 部活動の種類が限定される。
- (7) 教員の校務分掌が増加し残業増加で負担増となり、子供との面談時間が減少する。
- (8) 教員に特別な指導技術が必要である。（複式学級の場合）
- (9) 複数学年や複数教科の教材研究・指導準備で教員の負担が増加する。（複式学級の場合）
- (10) 実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる。（複式学級の場合）
- (11) 兄弟姉妹が同学級になり、指導上の制約発生の可能性がある。（複式学級の場合）

### 3 大規模な学校のメリット

- (1) 教員が多く、指導力向上に向け情報の交換が可能である。
- (2) 部活動の種類が多い。
- (3) 教員が多く、多面的な指導が可能である。
- (4) 教職員の校内研修にて多様な意見が出る。
- (5) 各教員の校務分掌数が減り、急な事案にも対応が可能である。
- (6) 教員が多く、出張等でも補助体制の形成が可能である。

### 4 大規模な学校の課題（デメリット）

- (1) 学校行事で役割分担のない児童生徒が発生し、各自が活躍する機会が減少する。
- (2) 集団生活でも同学年が中心で、異学年交流の機会が減少する。
- (3) 同学年でも不認知により、児童生徒間の人間関係が希薄化する。
- (4) 各児童の運動場割り当て面積が狭く教育活動に支障発生や、特別教室や体育館、プール等の利用で授業の調整が困難となる。
- (5) 学校運営で校長の一体的なマネジメントや、教員の共通理解に支障が生じる。